

の分譲開始を目指してまいります。
また、中徳田町地内については、工業用地を臨海部に求める企業もあることから、民間主導による工場立地を支援してまいります。

環境施策については、市民向けの勉強会や事業者向け省エネセミナーなどを開催し、ゼロカーボンに向けた機運の醸成を図るとともに、新たに住宅用太陽光発電設備などの導入促進のため、設置費等に係る補助金制度を創設いたします。

観光振興については、半田運河周辺において、市制85周年の記念として、提灯行列をメインとするイベントを開催し、半田運河の魅力を発信いたします。

また、第九回はんだ山車まつりについては、コロナの影響で1年延期となりましたが、令和5年10月の開催に向け、関係者と連携して準備を進めてまいります。

「つながり助けあう 健康と笑顔を育むまち」

新半田病院の建設については、令和7年春の開院を目指してまいります。また、常滑市民病院との経営統合に向け、統合後を見据えた組織体制を整備し、診療統合、機能分担による新たな地域医療の構築を進めてまいります。

健康増進については、新たに健康課を設置し、若い世代から高齢者まで幅広い世代に向けて、生活習慣の見直しや改善、社会で支える健康づくりなど、健康増進に関する施策を総合的に実施してまいります。

スポーツ振興については、日本福祉大学と連携し、総合型地域スポーツクラブの会員数の増加、指導者の確保といった課題を解決していくための研究や実践事業を展開いたします。

地域福祉については、継続的相談支援を推進し、複合化した生活課題をお持ちの方や、福祉制度の狭間で支援が届いていない方に、必要な支援を届けます。

生活困窮者への支援については、生活改善への支援を行うとともに、職を失った方に対しては、早期の自立に向け、ハローワークと連携したきめ細かな就労支援を行ってまいります。

「安心・安全で快適な生活 質の高い暮らしを育むまち」

防災・減災対策については、新たに被災地ボランティア派遣事業を実施いたします。被災や復興の状況を直に体感していただくことで、防災・減災に対する意識の向上、活発な自主防災活動や共助の体制づくりへと

つなげてまいります。

JR武豊線連続立体交差化事業については、高架下空間の活用について、地元関係者等と連携を図りながら、整備コンセプトや利用形態の方針を決定してまいります。

JR半田駅前土地区画整理事業については、令和9年度に完了予定の鉄道高架に合わせ、建物の移転を進めるとともに、区画道路や宅地造成の工事を進めてまいります。

景観形成については、亀崎地区では、亀崎潮干祭の山車運行ルートである亀崎仲町通りの無電柱化、景観に配慮した道路整備を行うことで、良好な景観形成とまちへの愛着や誇りの醸成につなげてまいります。

地区路線バスについては、期間限定運賃無料キャンペーンなど利用促進に取り組んでまいります。また、有脇小学校区では、地域の実情に合わせ、通常よりも安価な料金で利用できるタクシートの新規制度化を進めてまいります。

「互いを尊重し知恵と力を活か しあう 豊かさを育むまち」

協働については、市民活動助成制度のチャレンジ部門において教育・子育て分野の施策に関わる対象事業の助成率を引き上げ、市民活動に対する支援を強化してまいります。

共生社会の推進については、多様な価値観やライフスタイルを互いに認め、尊重し合えるようパートナーシップ制度の導入などの検討を進めてまいります。

デジタル社会の推進については、4月から新設するデジタル課を中心に全庁あげて取り組んでまいります。また、行政手続きのオンライン化、キャッシュレス決済を進め、市民の利便性向上を図ります。

開かれた市議会の推進については、本会議のネット中継を行うなど、広報聴機能を強化するとともに、議員活動の効率化を図るため、議員にタブレット端末を配付いたします。議会ICT化の取組を通じ、市民に市議会そして市政を身近に感じてもらえるよう努めてまいります。

長引くコロナ禍において、まちの発展のためには、Withコロナに対応して、市政を動かしていかねばならないことは、言うまでもありません。そのために、市民・事業者・行政が、より一層の連携を図り、まちづくりを進めていく、そんな1年にしていきたいと思っております。

12万半田市民の幸せのために、全身全霊で市政運営に取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。